

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(国語)科目:(現代文B) 対象:(第3学年A組～F組)

教科の指導目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の意見を適切に表現する能力を高める。
----------------	---

	高校入試等の分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 単語の意味を明確に理解しないままに文章を読み流している生徒が多い。言語運用能力を生かして深く読解したり記述したりすることが難しい。</p> <p>2 筆者の主張や考えを的確に読み取り、それを吸収し生かして自分の考えを作り上げることを難しく感じる生徒が多い。本文のどこが読解のポイントであるのかを掴むために能動的に読むことが中々できない。</p> <p>3 文学史などの国語に関する一般常識や、四字熟語や慣用句といった語彙問題について、正答率が低い。</p>	<p>1 単語の意味を正確に理解して使用できるようになるために、授業内で意味調べを実施し、語彙の定着を図る。</p> <p>2 筆者の主張や考えを明確にする上で本文を根拠にするよう声をかけ、意識付けを行っていく。それを元にしつつ、自分の考えをまとめる時間を設ける。</p> <p>3 一般常識や語彙を知識として定着させるために、調べる時間を設ける。</p>	<p>1 国語科教員間で生徒の様子に関する情報を共有し、丁寧な指導を行うよう努める。</p> <p>2 根拠を明確にしながら意見をまとめる時間を確保できるよう調整する。</p> <p>3 一般常識や語彙の問題、応用問題を定期考査問題に取り入れる。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			